

会員だより



母の日によせて

花が大好きな母を喜ばせたいと、実家近くの「ブラワーランド」に連れ出した。足腰の弱った母を車椅子に乗せて、色とりどりの秋の花が美しく咲く園内を一周した。認知症の傾向もあり、「きれいねえ」とは言うが、花の名前はほとんど忘れていた。いちばん喜んだのはソフトクリームで、指の方につれてくるのもかまわず幸せそうな顔をして食べた。家に帰ると「世話になったねえ。楽しかったよ。これきよう出してもらった分」と言って1万円札を出した。母の入場券はただだったし、かかったのは300円のアイスクリーム代だけと言ったら、「私が、あなたにあげられるのは最後かもしれないからとっておきい」と言っ

て聞かない。「じゃあもらっとく」娘のずうずうしさと親孝行のつもりで受け取った。ドラマ「北の国から」で純が上京する時、トラツクの助手席で父が工面した泥のついたお札に号泣する場面がある。私は母からもらった1万円札を封筒に入れ、「2007年11月」と記して引き出しの奥にしまっている。私にはお札についていた母の指紋が見える。

あれから5年半が経った。91歳の母は生活全般の介護を受けて施設で暮らしている。二年前に父が亡くなったことも色々な思い出も記憶から消えていく中で、かろうじて娘の顔には見覚えがあるように、「あなたは誰?」と言わないのが最後のふんばりどころ。昨日、真ん中の妹から「川柳」が届いた。

「母言えず、三姉妹の中、私の名」「老いた母、やっぱし忘れてた私の名」それでも同居していた末の妹の名は言えたという。私も母のベッドに顔を突き出し聞いてみたい。「私の名は?」今年ももうすぐ母の日が来る。気持ちがあへこんだ時、ふるさとの母のことを想ってみる。生きてるというだけで私を元気にしてくれる。

S・N



高田城百万人観桜会

独身時代の友人が新潟高田城に歩いて10分程のところに住んでいて、「お花見にいらつしやい!」と誘ってくれたので、梅田にいる友人と2人で出かけました。特急「サンダーバード」と「はくたか」を乗り継ぎ、直江津から高田までは、信越本線普通に乗り換えて5時間の列車の旅です。列車の中ではずっとおしゃべり、新潟に着いてからは、直江津と妙高に住んでいる友人3人も加わって賑やかで楽しい3日間を過ごしました。



高田城の夜桜は、日本三大夜桜に数えられていて、ライトアップされたお城とたくさんのぼんぼりと満開の桜が水面に映えてその美しいことい

素晴らしかったです。翌日のお昼はお弁当を持ってゴザを敷いて、又お花見。4千本の桜が丁度満開で堪能しました。来年は高田開府400年の記念の年だそうで、「是非来年もみんなでお花見をしましょう!」と約束して帰ってきました。T・O

猫・にゃんこ・ねこちゃん

我が家にはペットとして黒白と茶虎の猫がいる。すでに9歳を過ぎていますがまあまあ元気だ。黒白をルンルン(メス)、茶虎をトントン(オス)、まるでパンダの様な名前だが、この名前は我が家に来た時からすでについていた。野良猫を保護して里親に出すという、ネットのサイトで見つけ里親になったからだ。3か月を過ぎていて一番かわいいときだったが、人見知りでなかなか懐かなかつた。(餌係が私と解つてからは、しつかりなつたが)いまでは4.6Kと6.8Kのおデブ猫になつてしまっている。寝るときは私の布団の両側において、私は金縛り(猫



九谷焼の猫

縛り?)状態で寝返りも自由にできない。同じときに生まれた兄妹猫だが、メスのルンルンは別名を吐きねこと呼ぶほど胃腸の弱い猫で、医療費がかかる。餌も特別の療養食だ。でも「猫かわいがり」という言葉のとおりかわいくて、かわいくて...。夫が「ネコと俺とどっちが大切だ!」というと、

即娘とハモつて「猫!」と大声で答える。最近夫もあきらめたのかあまり言わなくなつた。もちろん娘たち3人も猫好きで、孫たちも動物をかわいがる精神をしつかり受け継いでくれている。世の中の子供、大人を問わず、ペットをかわいがるのは、弱者に対する思いやりにもつながるもので、猫派、犬派とか言うが、どちらにせよ生き物を育て、世話をすることの大切さをしっかりと身に着けてほしいものだと願っている。S・K

「楽しい手芸」端午の節句

端午の節句は、昭和23年に「こどもの日」と定められたそうですが、それまでは、3月雛祭り、女の子、五月端午の節句は男の子のお祝い、鯉のぼりや五月人形や兜を飾ったそうです。娘二人(私と妹)だったからか、母のぼりや兜はありません。ネコのマトリユーシカちょっと珍しいので、バラのキルトの作品の上に並べました。Y・I

